

16・2 神奈川県におけるふたごレジスターの設立と医療記録の連結

神奈川県立こども医療センター

松 井 一 郎

研究目的と昨年度までの成果

先天異常の遺伝研究，成因研究で双生児法の応用は重要な手段である。しかし出生頻度の低い双生児に遺伝病や先天異常の合併症例を発掘し，分析にたえる例数を確保することは至難に思われる。

このため，

1. 神奈川県下の全双（多）生児出生記録（人口動態出生票）を転写し，神奈川県双生児出生データバンクを作成した。またふたごの疫学統計ファイルも作成した。

2. 疾病をもつ双生児の抽出には電算機による医療記録連結（Medical Record Linkage）を行なった。双生児出生データバンクとこども医療センター入院病歴データバンクの間を数ヶの個人標識で連結し，先天異常を合併する双生児群が効果的に標識された。

以上を昨年度までの研究目標とし，必要な情報収集，コンピュータプログラム，ファイルを作成し目的を達成した。

本年度の研究目標

厚生省人口動態ファイル（神奈川県，出生，双生児，昭和50年以降）と，すでに作成した神奈川県双生児出生データバンク（こども医療センター）との照合確認を行なう。これまで入手した後者の出生と死産双生児情報の正確度を知り，統計処理を行なうさい補正すべき点の有無を知ることが目的である（図1）。

研 究 方 法

厚生省人口動態ファイル（神奈川県，出生，昭和50，51，52）のうち，双生児と三つ児の出生，死産情報を出力した（A資料とする）。出力のさい，神

神奈川県双生児出生データバンク（こども医療センター：B資料とする）台帳と出力様式を統一し、保健所別、年次別に照合確認を行なった。県下の保健所は37ヶ所、行政単位に従って4区域を区別した。

厚生省ファイルよりの多生児出生死産（A資料）の出力は：多胎数、生年月日、住所、父母の年齢、同居の年、職業、在胎期間、生死産の区別、性、出生時体重（上位2桁のみ）。これらを両資料間の照合に用いた。このファイルでは氏名の入力はなく、従って昨年度行った医療記録連結として利用することはできない。また双生児間における組の確認（対合）もなされていない。

研 究 結 果

本年度研究の狙いがB資料の統計資料としての信頼度評価が主眼であるから、

1. 出生（死産）多生児数の確認は厚生省ファイル（A資料）よりの出力台帳を基本とし、

2. 双生児組の対合確認は情報量の多い神奈川県双生児出生データバンク（こども医療センター、B資料）の台帳を基本とした。

A・B両資料の照合検討の結果、修正多生児組数を算出した。得られた4区域別の結果を表1に示した。（）内に三つ児組数を再掲した。

考 察

神奈川県双生児出生データバンクは、情報の保健所通過のさい転写コピーを伴うレジスターシステムである。担当者人事異動による引継ぎ不徹底など幾つかの弱点をもっている。従ってこのデータバンクを他の適切な資料で補正することは重要であり、表1にこの間の事情が示されている。現在、多種類、膨大な保健所業務を遂行しているなかで、規定業務外に双生児転写を依頼しており、そのさい上記の統計補正のシステムを併有することは大切である。

上記結果の全般的傾向は死産情報が欠落しやすい点であった。これを三つ児についてみるとB資料と修正組数の差はいずれも3つ児死産情報の欠落によるものであった。

要 約

神奈川県双生児出生データベース（こども医療センター）と、厚生省人口動態ファイル多生児出生・死産出力との照合検討を行ない、前者の統計補正のためのシステムを作成した。

文 献

松井一郎：ふたごと先天異常の研究，こども医療センター医学誌，
7（2）：245-248，1978．

追 記

本課題に関連した会議として、神奈川県双生児研究会を開催した。日時は昭和53年5月15日，午後3時～5時，場所はこども医療センター。出席者は横浜市・川崎市・横須賀市・神奈川県の保健所長代表，保健婦長代表，保健婦代表，こども医療センター所長・同研究普及室長・同医長・同保健婦。合計30名であった。

表 1. 多生児調査, A・B資料の照合検討による修正多生児組数

年次	昭 5 0 *1			昭 5 1			昭 5 2		
	A	B	修正組数	A	B	修正組数	A	B	修正組数
第 1 区域 (15 保健所)	344 (3)*2	247 (2)	351 (3)	287 (6)	252 (5)	303 (6)	285 (2)	234 (2)	290 (2)
第 2 区域 (7 保健所)	132 (2)	94 (2)	137 (2)	124 (3)	113 (2)	129 (3)	130 (4)	116 (3)	135 (4)
第 3 区域 (3 保健所)	32	32	37	57	58	61	44	24	46
第 4 区域 (12 保健所)	285 (2)	197 (2)	294 (2)	276 (4)	224 (1)	290 (4)	247 (1)	136	255 (1)
神奈川県 合計	793 (7)	570 (6)	819 (7)	744 (13)	647 (8)	783 (13)	706 (7)	510 (5)	726 (7)

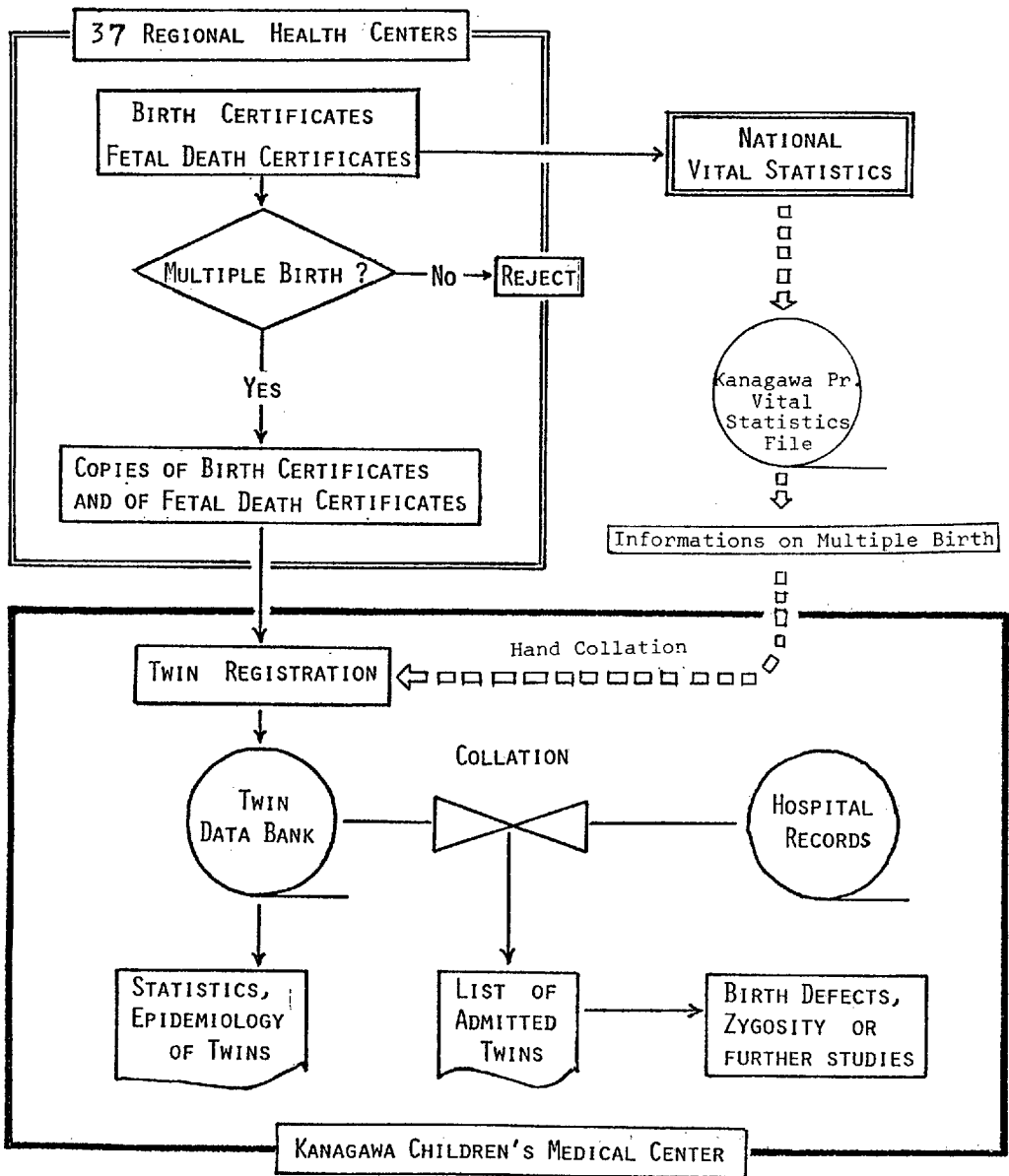
* 1 昭和 50 年の B 資料は 4 月よりレジスター開始のため 1～3 月分の欠落が不可避であった。

* 2 () は三つ児組数を再掲で示した。

☒ 1

TWIN REGISTER SYSTEM IN KANAGAWA PREFECTURE, JAPAN

SINCE 1975-



↓ 1977年までに実施したシステム
 □□□□ 本年度(1978年)の研究
 ↓



研究目的と昨年度までの成果

先天異常の遺伝研究, 成因研究で双生児法の応用は重要な手段である。しかし出生頻度の低い双生児に遺伝病や先天異常の合併症例を発掘し, 分析にたえる例数を確保することは至難に思われる。

このため,

1. 神奈川県下の全双(多)生児出生記録(人口動態出生票)を転写し, 神奈川県双生児出生データバンクを作成した。またふたごの疫学統計ファイルも作成した。

2. 疾病をもつ双生児の抽出には電算機による医療記録連結 (Medical RecordLinkage)を行なった。双生児出生データバンクとこども医療センター入院病歴データバンクの間を数ヶの個人標識で連結し, 先天異常を合併する双生児群が効果的に標識された。